



学校だより

なかはた

令和8年7月1日

渋谷区立中幡小学校

子どもを主体とした未来の学校づくり

校長 清水 晃

あいさつキャンペーン週間では、児童の代表だけでなく、保護者や地域の皆様、笹塚中学生徒会にもご参加いただき、元気な挨拶が中幡小に響いていました。ありがとうございました。

6月はふれあい月間として、子どもたちにアンケートを実施し、安心安全に学校生活を送れるように、取り組んできました。渋谷区が掲げる7つの力（基礎、探究、自律、協働、共感、創造、挑戦）を育む取組では、子どもたちが主体的により良い学校生活について考え、進んで実現していかれるような活動にチャレンジしています。子どもたちが主体的に学校生活をより良くしようとする時間が1日30分あるとしたら、1週間で150分。1か月で600分。1年間では7200分にもなります。これを実行できるかできないかでは、大きく身に付く力に差が生まれてくることでしょう。実質3年目を迎えたシブヤ未来科の取組も、様々な場面で子どもたちの主体的な取り組みを保護者・地域の皆様にお伝えしていこうと思います。

*

今の時代はこれまで以上に社会の大きな変化、時代の流れによって多様な価値観を身に付けることが求められます。人として多様な価値観があることを認識しつつ、自ら考え、より良い方向を模索し、実行していく資質・能力が求められます。

子どもたちの人間性や社会性、道徳性はどのように身に付いていくのでしょうか。人間の行動や言葉遣いは遺伝によって備わっている部分はほんのわずかです。人間は「まねる」ことで様々なことを身に付けていきます。子どもたちの言葉や仕草、行動は周りにあるもの、見たこと、聞いたことをまねしながら身に付けていきます。毎日の小さな積み重ねが、子どもたちの行動特性となり、人間性や社会性、道徳性になっていくのです。

口で言って教えるよりも、子どもたちの前で周りにいる大人が正しい手本の姿で居続けることが、何よりの教育になります。それが特に小学校までは一番必要です。成長していくにしたがって、自分自身で自分の行動を考え、実行していくことができるようになっていくということです。「大人が手本」まさにこれが大切なのだと思っています。

インターネットやタブレット、携帯などのデジタル媒体は大変便利なものです。しかし正しい判断力と自立心が身に付いていない子どもにとっては非常に危険なものであるともいえます。大人が何をどう示せばよいかを考えなければ子どもを守ることはできません。ご家庭でのルールも今一度確認してください。

*

今年も暑い夏がやってきます。子どもたちが安全に、安心して学校生活を送れるよう配慮してまいります。登下校時など、子供たちを見守ってくださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

